

「確かに大変だけど、頑張って働く甲斐はありそうだ。」

図書室のキリギリス

竹内 真 (たけうち まこと) / 著
双葉社 336p F/夕

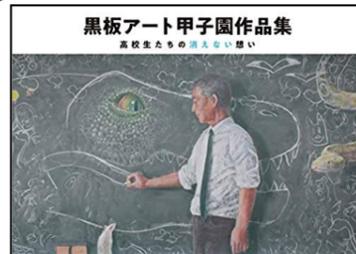


職探しをしていた詩織は、司書の資格を持っていなかったが高校の図書室で働くことになった。初めてのことがばかりに戸惑うこともあったが、少しずつ仕事にやりがいを感じ、本を通して生徒と共に成長していく。

「あふれる情熱と、高校生がもつ躍動感。」

黒板アート甲子園作品集 高校生たちの消えない想い

日学株式会社 / 総監修
日東書院本社 175p 720/コ



黒板アートとは、チョークを使って学校の黒板に絵を描くこと。この本では、そのコンクールである「黒板アート甲子園」の作品を注目のポイントやコメントと共に紹介する。神奈川県を始め、全国の学校から応募された作品は、どれも濃い緑色のキャンパスに自由な発想で描かれている。必要な物は、チョークと黒板のみ。中学生向けのジュニアの部もあるので、挑戦してみてもいい。



Teens向き

なつやす としよ 2020年夏休みすいせん図書

なつやす どくしよ
夏休みは、どっさり読書!!

おお いそ ちよう りつ と しよ かん
大磯町立図書館

0463-61-3002

「時の流れとともに子どもは成長するが、祖母に変化はない—はずなのだが、訪ねるたびにちがう女性に会っているような気がした。」

シカゴよりこわい町

リチャード・ペック / 著
斎藤 倫子 (さいとう みちこ) / 訳
創元社 190p TE/F3/へ



毎年8月になると、ジョーイは妹のメアリと2人で祖母の住む町へと泊まりに行った。祖母はとても豪胆な人で、嘘はつくし、発砲するし、進入禁止のフェンスも気にせず進んでいく。自身の信念を貫く祖母に振り回されながらも、楽しく刺激的に過ごした夏の日々を回想する。

「私の来た道が、10代の君たちに、少しでも役立つならうれしく思う。」

14歳の世渡り術 死体が教えてくれたこと

上野 正彦 (うえの まさひこ) / 著
河出書房新社 201p TE/49/ウ



著者は監察医という死んだ人間を診る医者だ。延べ2万人の死体を検死・解剖することで、死と向き合い、生きる意味を考えるようになった。監察医になった理由、忘れられない事件など、著者の生涯を辿りながら命の尊さを伝える。

「子どものうちに、生きる力を育ててほしい。」

石井桃子

児童文学の発展に貢献した文学者

筑摩書房編集部 / 著
筑摩書房 186p TE/910/イ

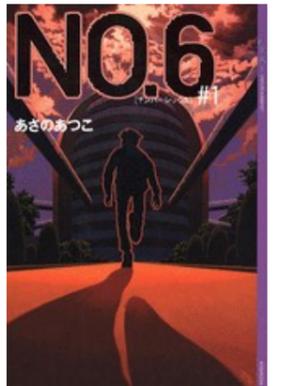


くまのプーさん、うさこちゃん、ピーターラビット。一度は見たことがあるこれらのキャラクターが出てくる本は、外国で生まれ、それを石井桃子氏が翻訳して日本で紹介された。翻訳だけでなく、ベストセラーになった著書『ノンちゃん雲に乗る』など自身の創作活動も続け、生涯にわたって児童文学に携わった。101歳で亡くなるまでの人生を辿る。

「あの時、窓を閉めて、適度に乾いた快適な部屋にいることを選んでいたら、ぼくの人生はまるで違ったものになっていた。」

NO.6 [ナンバーシックス]

あさの あつこ / 著
講談社 207p TE/F/7/1
全9巻



全てが管理された理想都市「NO.6」。そのエリート居住区で生活していた紫苑は、ある日ネズミと名乗る少年と出会う。彼は矯正施設から逃走した受刑者だった。この出会いをきっかけに、将来を約束されていた紫苑の人生は大きく変わってしまう。

